

40 代男性

●主訴

低髄圧症候群による頭痛・ふらつき・耳鳴り

来院 2 ヶ月ほど前、仕事中に頭痛・眩暈を感じ、病院を受診。低髄圧症候群の疑いと診断。筋弛緩剤や漢方薬を処方され、約 1 ヶ月安静にて静養していた。1 ヶ月ほど前より少しずつ仕事復帰したが、長時間起き上がっていると頭痛とふらつきが出てくる。また常時耳鳴りがしているため、鍼灸治療を求めてきた。

既往歴は緑内障と心室中隔欠損がある。

●症状所見

突然の頭痛と眩暈は原因不明。

発症後約 1 ヶ月は完全安静だったため、肩や腰が凝り固まった。発症後暫くは寝汗も酷かった。また、髪質が弱くなったと感じる。

●治療の内容と経過

1 診；足先が冷え、上腹部に冷えがある。舌や脈状などから、腎虚と気血の巡りの悪さがあると考え、手足と背部のツボ(主に少陰経・陽明経)に接触鍼(皮膚上に鍼を貼り付ける方法)を行った。また、頭部と背部の経穴に直接灸を行い、気の昇丁と全身の血流改善を図った。後頸部と肩に刺鍼し肩周りの緊張を緩和した。

2 診；1 週間後に来院。この 1 週間は低髄圧症候群によると考えられる頭痛とふらつきは感じなかった。ただし、長期の安静による腰痛と肩凝りで側頭部痛が少しあった。

1 診同様、手足と背部のツボに接触鍼を行い、頭部・背部経穴に施灸した。頸肩・腰臀部には刺鍼した。

3 診；1 週間後に来院。この 1 週間も低髄圧症候群からくる頭痛やふらつきは感じなかった。肩凝りも少し緩和されたようで、側頭部痛もなく過ごせた。

治療は前回までと同様に手足・背部に接触鍼をし、頭部・背部のツボに施灸した。また頸肩・腰臀部への刺鍼で各部位の緊張緩和を計った。

4 診；2 週間後に来院。この間も低髄圧症候群からくる頭痛やふらつきは感じなかった。

ただ、しゃがんだ状態から立ち上がる時など頭部の上下運動で違和感を感じる時があるとのこと。また、業務で長時間立っていた事もあり肩凝り腰痛がある。

治療は手足・背部に接触鍼をし、足部のツボに施灸した。また頸肩・腰臀部への刺鍼で各部

位の緊張緩和を計った。

●まとめ

来院 2 ヶ月ほど前に低髄圧症候群を発症し、以後、頭痛・眩暈・耳鳴りに悩まされておられました。病院を受診、診断を受けましたが、筋弛緩剤・漢方薬の処方と安静にすることしか対処法が無かったとのことでした。約 1 ヶ月間の安静の後、少しずつ日常生活に戻られていましたが、長時間起きていると頭痛や眩暈がして仕事の継続が難しくなるとのことでした。鍼灸治療を求めていらっしゃいました。

問診所見での舌や脈状、腹部・足の冷えや既往歴などから、腎虚と肝鬱気滞、気血両虚を考えました。素体としての腎虚があり、加えて仕事の疲労やのストレスなどから気と血が消耗して症状が発現したと考えられます。そこで補気・補血を主眼に腎陽を補い、気と血の巡りを改善させるよう治療を進めました。

初回治療後に頭痛・眩暈を感じなくなったということから、気・血の全体的な不足よりも巡りの悪さからくる頭部の虚であった事が考えられます。全身の循環が改善された結果、症状が消失したものと思われれます。

2 診以降は補気・補血の治療は継続し、通常の肩凝り・腰痛の治療を行いました。その結果、更に頭部への血流も改善し、肩凝りからくる緊張型頭痛もなくなられたようでした。

治療間隔が空いた後、起立時に頭部の違和感を感じることもあるとの事でした。これは、日常の疲労またはストレスにより気の巡りが一時的に滞りがちであったと考えられます。

以上より、素体の腎虚から何らかの原因で気血の巡りが停滞して発現した症状も、その巡りを改善する事で症状が緩和されたものと考えられます。

今後は、体調を安定させる事を目的に、治療間隔を延ばしながら治療を継続していく予定です。

【参考文献；金原出版株式会社「究めるキヲ漢方大全」仙頭正四郎 著】